

### 3 - 2 道路整備の方針

道路整備を進めるに当たっての方針は、理念に基づき「人」に視点を当て、次の考えに立って構成することとした。

道路は、県民一人ひとりの生活を24時間にわたって支えるものである。また県土全体をくまなく網羅して地域を支えることから県民すべてに何らかの形で関わりのある交通基盤である。そこで、道路整備の方針として、人々の一日における関わりの観点から「生活」と「産業」の視点、また、県民すべての人々の観点からは「都市」と「地域（地方）」の視点で整理することとし、これらを「人や自然に優しい」視点で全体を包含する五つの柱で構成した。



#### 人や自然にやさしい空間の創造

道路が本来、担っている空間としての機能を生かすため、地域の歴史や文化、景観、自然条件等を十分把握して、ルート、道路構造等については、沿道の景観や環境等に配慮し、あるいは地域の実状、ニーズを踏まえたものとする。

これまで、道路は県民の経済や生活の向上に大きく寄与している。しかしある程度のストックが確保された現在、これからの道路整備に当たっては、人を中心に置いた道路（みち）の観点を大事にし、歩道、自転車道の整備に対しても、健康やレジャー面でのニーズにも考慮して、重点的に取り組むものとする。その際、歩道の段差の改善や電線類の地中化など、高齢者や障害者の円滑な社会参加に資する利用者の視点に立ったバリアフリー（<sup>1</sup>）化を図ることはもとより、道路空間におけるユニバーサルデザイン（<sup>2</sup>）を推進する。

本県は、阿蘇、天草に代表される自然が豊かな県であり、地方部の自然や文化は、都市住民にとっても癒しとなるオアシスである。このため沿道景観に配慮した地方との交流・連携を促進する道路づくりを進める必要がある。

地下水のかん養に対しても、透水性の構造とするなど道路整備においても配慮を進める。

## 安全で豊かな暮らしの提供

少子高齢社会を踏まえ、道路におけるユニバーサルデザイン<sup>(1)</sup>を展開するとともに、生活者の視点に立って利便性の向上、交通安全に資する道路づくりを進める。それは運転者にとっても快適な運転ができる道路でもある。

特に救急医療施設あるいは福祉施設等へのアクセスとなる道路の整備を進める。

また、熊本県は、地形が急しゅんなどところが多く、年間降雨量も多いことから自然災害を受けやすく、道路が被災し、生活の生命線がたたれることも多い。これは全県的な課題であるが、特に天草、阿蘇、球磨等において顕著である。

さらに、被災時等の緊急輸送道路の確保も重要である。このため暮らしの安全を支える道路の防災対策や緊急輸送道路の確保に努める。

また、高度情報化時代に対応し、道路・交通情報の提供についても検討を進め、適正な案内標示とともに利用者にわかりやすい道づくりを進める。

さらに、道路整備と合わせ、その運用に当たる交通管理者との連携を強化する。

また、豊かな暮らしをはぐくむには地域の景観や環境が大切な要素であることから、沿道の実態を十分把握し、快適な道路空間づくりに向けた対策を講じるものとする。

## 産業活動を支える基盤づくり

熊本県は、半導体関連産業の集積が進んでおり、熊本都市圏及びその周辺の地域において工業団地等が造成され、多くの企業が立地している。半導体関連産業以外にも活力を創造し、雇用の創出に貢献する地場の企業も含め多くの企業が集積している。

また、本県は阿蘇、天草といった国際的な観光資源に恵まれ、各地域にも温泉や文化施設等の多様な観光資源がある。そしてこれを生かし、観光産業が形成されている。

さらに、本県は阿蘇の畜産あるいは都市近郊でのトマトやメロン、スイカといった農業、また、クルマエビやフグ、マダイ等の養殖に代表される水産業が盛んで、全国で高いシェアを誇っている。

一方、森林が県土に占める比率は60%以上で、特に、阿蘇、球磨地域において林業が盛んである。森林は、下流域の水資源のかん養や県土の保全、海への栄養源の補給等多様な役割を担っている。

これらの本県の多彩な産業を支えるのに人流、物流を担う道路の役割は大きいものがあり、今後とも観光拠点、産業拠点等あるいは空港、新幹線駅、主要港湾等の他の交通機関や高速道路インターチェンジへのアクセスとなる道路の整備を進めていく必要がある。

特に九州が一体となってアジアに向けたゲートウェイ<sup>(2)</sup>としての役割を担うには、県内においても空港、港湾等と連携し、受け皿となる道路整備の必要性が高まる。

また、熊本都市圏、阿蘇・天草の観光地や企業集積地周辺等における交通渋滞箇所のうち、短期的取り組みで早期の効果が見込めるボトルネック<sup>(3)</sup>箇所について、その対策に取り組む。

## 活力ある都市づくりの支援

熊本県では、11の圏域においてそれぞれに中枢となる都市が形成されており、多様な都市活動が営まれている。道路は、土地利用の方向を規定する側面を持っており、健全な都市の形成を図るため都市における計画的、体系的な道路整備を進める。

特に熊本都市圏では県人口の約6割をかかえ、都市活動が活発に営まれている。その結果、様々な都市問題も発生している。ことに交通渋滞については喫緊の課題となっている。

熊本都市圏の交通円滑化に向けては、今後の都市圏人口の増加傾向、広域高速交通網の整備、都市活動の広域化が予測され、これらによる交通への新たなインパクトも念頭に入れ、交通円滑化対策を重点的に取り組むこととする。

このためには、ハード施策のみでは限界があることから、今後はソフト施策（公共交通網の整備及び利用促進、交通需要マネジメント<sup>(1)</sup>等）に力点を置き、合わせて2環状11放射道路網を基軸として体系的な街路整備の推進を図る。特に外郭を構成する環状機能の確保、あるいは九州新幹線熊本駅周辺の広域高速交通拠点機能の確保に向け重点的に取り組むこととする。

九州新幹線の開業後を想定し、各新幹線駅（新玉名駅、新八代駅、新水俣駅）での道路のアクセスを図り、交通結節機能を高める。

さらに、主要な在来線駅への道路アクセスの改善を図り、交通結節機能を高める。

2環状11放射道路網イメージ図



## 地域の交流・連携の強化

熊本県は、地理的に九州の中央に位置し、これを活かして各県との交流・連携を深め、そのことで県勢の活力ある発展を遂げ、さらには九州全体の発展に資するためには、本県のみならず各県の連携による九州全体の高速交通網の完成が不可欠である。このため、本県の主要施策である熊本都市圏と九州各県の主要都市との間を1日行動圏で結ぶ「150分構想」を重点的に進めるものとする。

次に都市と地方の円滑な交流を促進し、相互の持つ機能を享受することで地域の発展を目指すため、本県の主要な施策である熊本都市圏及び熊本空港と県内主要都市とを半日行動圏とする「90分構想」に重点的に取り組むとともに、地域の骨格となる主要な道路の整備を進めていく必要がある。

また、熊本県総合計画の地域計画編には、それぞれの地域が目指す発展の方向が記されている。各地域が自立し、目指している発展を実現し、地域相互における競争と調和により県土全体の発展が達成されるものである。このため、各地域間の交流・連携を支える手段としての道路整備を今後とも取り組んでいく必要がある。

特に今後、市町村合併が進む中で、地域内の交流の円滑化、利便向上を図るための道路整備が重要となる。

